



にじ 虹

ちいろば会理事長 大澤 星一

もうしょ なんにち つづ あめ ふ きんきちほう がつ すえ たいふう ごう ごう ころ
 猛暑が何日も続き、雨がほとんど降らなかった近畿地方も、8月の末や台風9号や10号がやってきた頃
 から雨が多くなってきました。天気不安定になって、晴れているのに急に空が暗くなって、低い雲が渦巻き、
 大雨になったり、雷が鳴ったり。雨が向こうからこちらに向かってやって来るのを見ることが出来たりと。
 そんな時に大きな虹が空にかかっているのを何度か見ることが出来ました。ほぼ完ぺきな半円の大きな虹
 や二重の虹など、思わず「おおっ」と声をあげるくらい見事な虹もありました。

にじ せいしょ かみ にんげん あいだ へいわ う と
 虹は聖書では神さまと人間の間の平和のしるしと受け止められています。

にほん にじ あか だいだい き みどり あお あい ぐらき ないろ かぞ
 日本では虹は赤、橙、黄、緑、青、藍、紫の七色と数えられていて、「せき、とう、おう、りよく、せい、らん、し」
 と音読みでの覚え方が知られています。でもこれは世界共通ではありません。アメリカやイギリスでは六色
 で「藍色」が数えられていません。多くの国は「藍色」と「橙色」が数えられずに五色と受け止められている
 ところが多いようです。沖縄では昔は「赤」と「青」の二色と数えられていたりもしました。実際のところは、
 はっきりとした色の区別があるのではなく、光の関係で色が少しずつ変化しているので、色が何色あるのか
 の正解というものはないのですが、たくさん色が並んで綺麗だなと、ずっと見ていたくなります。

もし、この虹の色がすべて混じりあっていたら、どんな色になるでしょうか？ 小学校の頃、図画の授業で
 え ぐ つか とし え ぐ ま ため ひと おお おも ぜんぶま
 絵の具を使った時に、すべての絵の具を混ぜたらどうなるだろうかと試した人も多いと思いますが、全部混
 ぜたら、茶色とか鼠色とかになります。茶色や鼠色が嫌というわけではありませんが、もし雨が上がった後
 の虹が茶色一色だったら、どうでしょう。やっぱり虹はいろんな色が混ざらず、それぞれの色がちょっとずつ
 重なっている方が良くないかなと思います。

わたし しゃかい おも ちが いろ な かさ
 私たちの社会もそうなんだろうなと思います。それぞれの違いがあって、それぞれの色が無くならずには重
 りあって社会を作り上げている方が綺麗だし、面白い。年齢や性の考え方の違い、職業、政治についての
 かんが いた いろ う ぼしよ ちが せいじつ う と あ みとあ
 考え方、肌の色や生まれた場所。そうしたいろいろな違いがあって、それぞれ誠実に受け止め合い、認め合
 って、互いに穏やかに共に生きることが出来る社会。そんな社会であれば良いなと、虹を見て感じました。
 みな こんどにじ み て き しゃかい そうぞう み くだ
 皆さんも今度虹を見ることが出来たら、そんな社会を想像しながら見てみてください。

きょうだいとともに・・・

ちいろば園 主任 奥田陽子

ちいろば園では毎夏、『兄弟姉妹の勉強会』を開催しています。利用者のみなさんのごきょうだいを対象とした勉強会で、今年度は3名の参加がありました。毎年2名から十数名の参加があり、この10年間、ごきょうだいのいる利用者のみなさんの約半数の方々に参加して下さっています。

障害をもつみなさんの将来（親亡き後）の暮らしに対する不安はどのご家庭にも当然あります。障害をもつ人のごきょうだいにとっては、親御さんとはまた違った不安があるのではないのでしょうか。「親に何かあればどうすればいいんだろう…」「普段親がしていることがわからない…」「この先もずっと一緒に暮らし続けて自分が支えていけないといけないのだろうか…」という漠然とした不安。そして何より、親御さんが障害をもつごきょうだいのことを自分に託すことを期待しているようなプレッシャーを感じておられる方も少なくないと考えます。

定期面談の折、ある親御さんからご姉妹の想いを聞きました。「私が一緒に住めないと行ったら、冷たい姉妹やと言われるだろう…」と話していたのだと。ごきょうだいにとっては、親御さんから感じる暗黙の期待、きょうだいを感じる責任、自身の人生に対する展望、障害をもつごきょうだいに対する想い等々の想いがめぐり、いろいろな葛藤があるのだらうと思います。

当然ごきょうだいにはご本人の暮らし、人生があります。親御さんがしてきたことと同じことをできるかという、それはほとんどの場合難しいでしょう。しかし、今日的には日中活動、居住、外出に関する支援などの直接的な支援は福祉サービスを活用することが可能です。居住に関していうと、実際にちいろば園の利用者のみなさんのうち4割近い方が一人暮らしやグループホームで支援を受けながら暮らしています。そういった現状を知ってもらおうと同時に、サービス利用ではまかない切れぬ部分についても話をしています。

とはいえ、ごきょうだいごきょうだいが率先して何か変化をもたらすことは困難でしょう。親御さんごきょうだいの想いやタイミングが一致せず対立してしまっても何ともなりません。障害をもつ人と家族という限られた人間関係においては、互いの関係は固定化してしまうため、家族以外の人の支援を必要とすることも併せて伝えていきます。

私にも障害をもつ兄がいます。家族以外の人の支援を受けることの必要性がわかっているにもかかわらず、いざ自分が家族の立場に立つとなかなか他人の力を借りることが出来ないでいます。一年、また一年と年数だけを重ね、実生活には何の変化ももたらすことができていない現実、無力さを感じ情けなくなりますが、いつかお互いが負担にならず心地よい距離感を保てるいい関係をつくっていきたくと思っています。ちいろば園利用者のみなさんごきょうだいにおいても、他人の力を借りることで障害をもつごきょうだいいい距離感を保ちながら、ご自身の人生を大切にしてもらいたいと思います。

最後になりましたが、今年もお忙しい中ご参加下さったごきょうだいのみなさま、ありがとうございました。

しゃしん とも しょうかい 写真で友だち紹介

このページでは、利用者の皆さんに、お友だちをひとり選んで写真を撮って紹介してもらいます。

紹介をされた人には、次号であらたなお友だちを紹介してもらうという数珠つなぎのコーナーです。

うめのれいこ
梅野玲子さんから
まつながりょう
松長玲さんを紹介します



わたし まつなが おな
私は 松長さんと 同じ グ
ループで 作業しています。
まつなが
松長さんは シールはり
はやくて きれいです。
わたし
私も ぞうりの テープ止め
できるようになったよ。
また、いっしょに やろねー



たなか
田中さんとは、ずっと一しょ
にけいさぎょう2かいぐるーぶ さぎょう
軽作業2階グループで作業を
しています。田中さんは、ぼくの
となり せき みさとはきもの しごと
隣の席で、ミサト履物の仕事
をしています。ぼくがぞうりを ふくろ
に入れて、となりの田中さんに
わた
渡します。
たなか
田中さんは、その袋にミサト
はきもの せつめいしょ い
履物の説明書を入れます。
いつも、コンビネーションぱっちり
さぎょう
で作業をしています。

くろかわまさみち
黒川正通さんから
たなかけんすけ
田中謙輔さんを紹介します



おぐらなな
小倉奈々さんから
たかしまつとむ
高島努さんを
しょうかい
紹介します



おな えんげい たかしま
同じ園芸グループの高島さんはお
おきなからだで、ちいさなブルーベ
リーを上手にとっているの、すご
いなあとおもっています。アルミ缶つ
ぶしをするとき たかしま かん
高島さんは缶を
じょうず きかい い
上手にすばやく機械に入れてくれ
ます。わたしもつぶれてどんでん
でくる缶を、がんばって袋に入れて
います。





えいち まな
H さんから学んだこと

グループホーム職員 阪口 寿久

にぬふあ星に入居されている H さんを紹介いたします。

えいち H さんは自分にとって必要なことは、支援者の都合は関係なく話しかけてきます。支援者からの問いかけについては、タイミングが合えば話ができる事もありますが、たいてい「今忙しいから後にして下さい」と返されてしまいます。また、会話の中でよく「そうだと思います」という返答があります。例えば、「昨日どこに行ったの?」「郡山」「コンサート?」－「そう思います」、「何か買ったの?」－「そう思います」といった感じです。

会話がつかず悩んだこともありました。彼の今までの生活の中で相手との会話を円満に上手くかわす為の術として身につけたのかもしれないととらえました。コミュニケーションのとりかたが不十分なので、これまで生きにくい生活を送ってきたらうと思っていました。

えいち H さんは、自分の分からないことを次々とされるとチックが出ます。「チックが出るから彼と話が出来ない」とか「言ってもすぐ断られるから話が出来ない」と捉え適切な支援が出来なかった私の姿がありました。H さんの障害は広汎性発達障害（自閉症）です。「部屋を片付けましょう」と言うと、「いえ、結構です」とかえってきます。今まではそこで会話が終わってしまい、前に進めませんでした。しかし、先日「そこに落ちている服をハンガーに掛けましょう。」と具体的に伝えると自分から進んでやることができました。これまで私は、彼の特性が分かっていたので、勝手に H さんに拒否されていると判断しそれ以上関わらなかったのです。障害特性を理解し声かけの仕方を変えることで、きちんと伝わり実感しました。つまり今までは H さんのことを正しく理解できていなかったで、私からシャットアウトしてしまっていたのです。そういうことの悪循環が続いていたのだと気付きました。

「H さんが変わってくれたら」ではなく「私たちがもっと変われば!」「私たちがもっとスキルを身につけなければ!」というように考えると、少しずつ関係が変わってくると思います。そういう視点を持っていないと、やっぱり H さんは難しい人だとなってしまいます。これはすべての人に通じることです。利用者さんのことを「コミュニケーションをとるのが難しい」「どうせ言っても・・・」と考えていると、利用者さんも私たち支援者をそうみています。『一緒に考えていこう』という思いを伝え、信頼関係を結ぶことを目指したいです。

まずは H さんが好きなご当地アイドルの話題で関係を深めたいと思います。

「入職して 支援とは... 感じた想い」

ちいろば園職員 清原 亜里

2020年3月に入職したちいろば園新人支援者の清原亜里と申します。前職で、障害をもつ方たちと一緒に仕事をさせていただいた事で、生活支援者とは... 私自身携わってみたいという想いでちいろば園の求人に応募しました。入職して、初めてバッチづくりの担当を、任せられました。軽作業1階グループでは、いくつかの幼稚園から依頼されたバッチ作成の内職で、今年も沢山の注文をいただきました。準備に取り掛かると、注文いただいた絵の色合いが思うようにならず、カラー印刷の難しさに、本当に頭を抱え、悪戦苦闘しました。何とか印刷を完成させ、利用者さんにバッチを作成してもらいましたが完成したほとんどのバッチは、絵が傾いていました。「なぜ、途中で気が付かなかったんだろう...」主任とグループの話し合いをし、職員3人もいたのにもかかわらず、職員間での話し合いが無かったこと。事前に、支援ツールの準備もせず、出来そうな人に固定して作業をしてもらっていたことに気が付きました。そもそも、何の合理的配慮もないまま作業をしてもらっていたことに、支援者として利用者さんの立場になって考える事が出来ていなかったことに、申し訳ない気持ちと反省の気持ちでいっぱいでした。

バッチの内職が苦手が作業にならないこと、作業の参加度が高まることに注意しながら、すぐに改善をはじめました。①作業工程の細分化。②絵が傾かないように機械と絵にしるしをつける。③作業の手順表の作成。④材料を置くかごの準備。たった数日でもこれだけの合理的配慮を考えることが出来ました。作業工程を細かく分けたことで、多くの利用者さんがバッチの内職に取り組むことが出来ます。また、機械のしるしと手順表があることで絵が傾くこともなくなりました。

何の準備もなく始めてしまった時よりも、多くの利用者さんが作業に参加できるようになった姿をみて、みんなで形あるものに仕上げていることをうれしく感じました。ですが、まだまだ改善の必要なものもあります。そして今回の自身を振り返り、支援者としてもっと気づく力や想像力を磨いていかなければと痛感しました。私の理想とする、利用者さん、ひとりひとりをしっかりとみてどこが困っているのか気づけるような職員とは... すごく考えさせられました。

日々、1日の終わりに自身の支援を振り返り、反省する事もあります。ただ、分からない事があれば主任に聞く事。自分自身で調べてみる事。利用者さんと心から向き合う事。自身の毎日の課題として取り組んでいます。今後も今の気持ちを持ち続けて1日1日少しずつでも成長していけるように努力していきます。



仕事への思い

グループホーム職員 岩崎 眞滋



今年の夏は、コロナ禍という誰も経験のしたことのない状況で、猛暑も重なりました。普段どおりの生活を送れないと、ストレスも溜まることもあると思います。利用者・ご家族の皆さんはコロナ疲れ・猛暑疲れ、大丈夫でしょうか。

ある健康情報サイトで、コロナ疲れをしないために最も大事なことは、規則正しい生活であるという記事が紹介されていました。起床時間を一定にする、食事はバランスよく3食きちんととる、おうちの中でできる軽い運動をするなど、こんなときだからこそ、基本に立ち返って規則正しい生活で体内のリズムを整えることがコロナ疲れにはよい対策になるそうです。

グループホームでも、一定のルールのもと、規則正しく生活することを大切にしてきました。ただ、これは私の反省点でもあるのですが、グループホームで皆で一緒に生活していると、ときどき、仕事であるということを忘れてしまいそうになることがあります。ひとつ屋根の下で、一緒に過ごしているとまるで本当の家族と居るような感覚になることがあるからです。私は、ときどき、誰かがルールを忘れてしまったり守れなかったりした場面に出くわしたときに、その人に「ルールは守らないといけないよ」と声をかける一方で「でも、この人の好きなようにさせてあげたいな」という気持ちを持つことがあります。

人間誰も、自由気ままに生活したいという欲求が心のどこかにあると思います。ですが、誰かと一緒に生活するためには、たとえ家族同士であってもお互いにルールを守ることが大切だと私は思います。それが、一緒に生活する者同士が、お互いを思いやって気持ちよく安心して暮らす秘訣だからと考えるからです。もちろん、不合理で厳しすぎるだけのルールを押し付けてはいけません。実際のグループホームでの生活の中で、この自由とルールのバランスをどうとるのかを常に考えながら行動することが、私にとっては、難しいと感じるところでもあり、同時に非常にやりがいを感じる場所です。

一緒に生活する上で、皆が心身ともに健やかに、楽しく、安らぎを得られるよう、今後も私ができることをコツコツと取り組んでいきたいと考えています。

ことし けんしゅう ざいにちちょうせんじんさべつ まな
今年の研修テーマは「在日朝鮮人差別に学ぶ」です。

こうし げきだん だいひょう きむみん す こ
講師には、劇団「タルオルム」代表の金民樹さんにお越しいただきました。



か きほうじんしよくいんけんしゅう さんか
—夏季法人職員研修に参加して—

えんせいかつしえんいん つちはしみ か
ちいろば園生活支援員 土橋美香

いちばんいんしやう のこ きむ じぶん そこく じつ べんきやう こと
一番印象に残ったのは、金さんがご自分の祖国やルーツについて実によく勉強されているという事
でした。日本人である私 は、それらのことを深く考えたこともなく恥ずかしい気持ちになりました。
ざいにちちょうせんじん かたがた まな そんけい ねん いた
在日朝鮮人の方々がみんなそういったことをしっかりと学ばれているのなら尊敬の念こそ抱くもの
の、「差別」という気持ちなどない…というのが正直なところでした。けれどそれは私が在日朝鮮人
かたがた かんしん ち おも はじ いこく いじゅう
の方々について関心を持つとしなかったからではないかと思いはじめています。異国に移住してから、
どんな思いでどんな暮らしをされてきたのか、忘れてはならない歴史があることなど、詳しく知ろうとし
ませんでした。それは私が加害者側の人間だからかもしれません。「無知」こそが「差別心」なのかもしれ
れないと感じています。学生の頃、チョゴリを着た同世代の学生を電車内で見かけたことがあります。
けれど、彼女らはチョゴリのウエスト部分にベルトをして日本の女学生の制服に似せようとしていました。
ほいくし ころ ひとつぜん きやう ほんみやう か い おやこ
保育士をしていた頃、ある日突然「今日から本名に変えますのでよろしく」と言ってきた親子がいま
した。そういう出来事に遭遇しながらも、その意味を深く考えようとしなかった自分を反省します。
まずは意識して知っていく努力をしていきたいと思っています。

しゆにん よねだ まもる
グループホーム 主任 米田 守

ざいにちちょうせんじんさべつ ちしき れきし おし かんこく にほん せいじてき
在日朝鮮人差別についてほとんど知識がなかった。歴史などを教えていただき、韓国も日本も政治的
な背景なのか・・・？人としてはお互いに理解しあえるのに どうして国となると対立してしまうのか？
にほんじん かんこくじん とし せいじ せいふ かん くに
日本人もそうだが韓国人もその時の政治（政府）にふりまわされていることを感じた。それぞれの国がお
たが おち れきし じじつ まな はんせい すなお しゃざい りかい かんけい
互いを思いやり、歴史や事実を学び反省しなければならない。素直に謝罪し理解しあえる関係でありたい。
か こ ざいにちちょうせんじん じゅうぐんい あんふ ひとびと しゃかい むかし あやま
過去において在日朝鮮人や従軍慰安婦の人々が「そうせざるえない社会」だったこと。昔の過ちを
くりかえしてはならないが、現在の日本はどうだろうか？ 「そうせざるえないから」という社会状況
になってきているのではないか・・・。格差社会、差別、虐待、貧困、孤立などがまねいているさまざま
まな しゃかいちんだい じんけん そんちやう しゃかい しゃかいちんだい ただし し
まな社会問題、人権が尊重される社会をつくっていくためには、こうした社会問題について正しく知り、
みじか ちんだい かんが まな こうどう けんしゅう つう かん
身近な問題として考え、学び、行動していくことだとこの研修を通じて感じた。
きむ みんす し いそが なか かいしよくいん か きけんしゅう こ
金民樹氏には、お忙しい中にもかかわらずちいろば会職員夏季研修にお越しいただき、ありがと
うございました。

☆^{ごうえんかいひ}後援会費・^{ねんかんこうどくりょう}ちいろばだより年間購読料 (2020年6月1日～2020年7月31日)

田中廣子、木村俊彦・芳子、本岡信光、由良雅一、竹田和子、北飯史子、村上太一、上野都枝子、吉田陽亮、梅野玲子、中園大二郎、NPOなら人権情報センター、田中謙輔、黒川正通、辰巳普宣、坂本友希、吉井紗英、吉岡佳菜、本間結子、高見良平、松岡靖子、新谷貴雄、高島努、堀内俊文、山中邦夫、長尾良子、谷野裕悟、小倉奈々、篠原範子、石川美津枝、西田久美子、前平正恭、木村朋子、中川朋子、阿波宏晃、村上智子、梅田敬子、松長玲、平山恵理、横山文吾、片山雄太、森川佳紀、高見敏雄、竹下由里子、中村康子、梶原拓馬、齊藤剛、原武史、中野みち、木下好司、石原慎也、窪田義廣、岡林千恵子、文新善、西村周也、卜田啓三・昭子、栗山典子、廣野和子、本田佳子、藤井博次、橋本勝寿、小川あゆみ、辰己真奈美、川端邦芳、松本敬子、福田容子、富田久江、木村和子、井上基子、佐藤薫・美雪、塚本智恵子、岡本啓子、小園昌代

^{きょうりやく}ご協力ありがとうございます。

^{いじょう}以上 ^{けいしょう}敬称は ^{りやく}略させていただきます

—ちいろばクリスマスコンサートについて—

^{まいねんまつ}毎年末、^{そうしゃ}チェンバロ奏者 ^{こうの}河野 ^こまり子さん ^{きょうりやく}のご協力により、^{ほんかくてき}本格的な ^{えんそう}プロの ^{たの}みなさんの演奏を ^{えんそう}楽しませていただく「ちいろばクリスマスコンサート」ですが、^{こんねんど}今年度については、^{いま}未だ ^{しゅうそく}収束の ^{けはい}気配をみせない ^{しんがた}新型コロナウイルスの ^{かんせんよぼう}感染予防の ^{かんてん}観点から、^{ひじょう}非常に ^{ざんねん}残念ではありますが、^{かいさい}開催を ^{ちゅうし}中止 ^{けつてい}することを **決定**しました。

^{らいねん}来年には、^{かんせんかくだい}コロナウィルスの感染拡大も ^{しゅうそく}収束して、^{いっしょ}みなさんと ^{すてき}ご一緒に ^{おんがく}素敵な音楽を ^{たの}楽しむことを ^{いの}お祈りしています。

KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会 年 6 回 頒価 50 円
 連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北 5-6-14
 TEL : 0745-72-1923 **FAX : 0745-72-1924 ※番号が変わりました。**
 発行人／ 関西障害者定期刊行物協会
 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4F